

川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策アドバイザー会議

設置趣旨（案）

川辺川に建設予定の新たな流水型ダムについて、環境影響の最小化を目標に、令和３年度より本格的に調査・検討を開始しており、環境影響評価法に基づくものと同等の環境影響評価を実施し、令和６年１０月に最終の環境影響評価レポートを公表したところ。

環境影響評価に当たっては、他ダムでの調査結果や昭和５１年から実施している川辺川の流水型ダムの影響範囲における環境調査結果、並びに各種解析や水理模型実験結果を活用し、地域のご意見を伺いながら、現時点で得られるあらゆる知見や科学的なデータに基づき、丁寧かつ繊細な検討を実施してきた。

一方、今後も地球温暖化の進展に伴う降雨特性や水温等の変化により、食物網を通じて生態系にも変化が生じる可能性がある。さらに、川辺川の流水型ダムの完成は令和１７年度と定めており、完成前に実施する試験湛水も１０年程度先となり、試験湛水やダムの運用を行う際には、環境影響評価で前提としていた調査データから変化が生じる場合もある。

このため、今後もモニタリングを継続的に実施し、流水型ダムの洪水調節地内に加え、ダム上下流の河道も一体的に、栄養塩や土砂の動態、及び各種ハビタットを基盤とした食物網による生態系の時空間的特性を捉え、流水型ダムの環境影響の最小化、更には、環境再生や創出のための取組を関係機関が連携して実施し、清流川辺川を次世代に引き継ぐべきである。

以上、環境影響評価レポートを継承し、更なる環境影響の最小化、並びに環境再生・創出に向けて、今後取り組む流水型ダムの環境保全措置の実施計画、現地調査や現地での試行・実証、及び数値解析や実験等に関する技術的検討に対し、有識者からご助言をいただき、環境保全措置や河川整備に反映していくために、川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策アドバイザー会議を設置するものである。

令和７年●月

アドバイザー会議の位置付けと主な議題(案)

川辺川の流水型ダムに係る環境保全対策の具体化に向けて

- 継続的なモニタリングの実施
- 更なる環境影響の最小化
- 自然環境の再生・創出（ダム上下流一体的）

環境影響評価手続き後の継承事項

- 環境保全措置等の具体化
(動植物の移殖、繁殖場の整備等)
- 個別計画の具体化
(モニタリング計画、植生回復プラン、試験湛水計画等)
- 技術開発の進展
知見の蓄積
データの蓄積

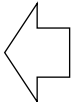
地域のニーズ

- 環境教育への活用・連携
- 地域振興への寄与・支援

川辺川での事業者の取組

- 工事等による人為的改変の影響最小化
- 環境保全措置等実施
環境再生・創出
- 川辺川でのモニタリング
- 試験湛水による影響最小化
- 洪水調節による湛水の最小化
- 技術レポート作成・公表

助言



アドバイザー会議（透明性を確保）

主な議題（案）

- 事業者の取組の進捗報告
- 最新の知見等の共有・データの活用方法
- フィールドでの試行実証
- 生態系のさらなる理解場（物理環境）の評価

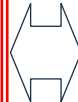
※工事の進捗等に応じて柔軟に対応

個別部会等の設置

※必要に応じて設置

- 各生物のモニタリング
- 景観・利活用
- 水理模型実験等

連携



川辺川アカデミア

- 学校授業で活用
- 地域のイベント
- 職員等の研修
- 観察会等の開催
- 工事前の移植救出活動等協働
- 広報・情報発信

共有・反映

他の委員会・協議会
(球磨川水系学識懇談会、流域治水協議会、ダム等フォローアップ委員会等)

青着色：現在進めている取組
黄着色：これからの取組
緑着色：将来に向けた取組